

4 パネルディスカッション

テーマ：「語り合おう！ 私達の新しいまちを」

（コーディネーター：まちづくりフォーラム 中俣知大代表）

それでは、これからパネルディスカッションに入りますが、我々45名のメンバーが5回にわたって会議を重ねてまいりました。1回の会議が1時から5時まででしたので、4時間。1人が5回掛ける4時間で、20時間。それに45名を掛け算すると900時間という時間を費やしましての提言書になっております。これを1時間半ぐらいで説明するわけですが、皆様、この緑の冊子の6ページの右側に緑色に刷り込まれているところをご覧くださいませんか。提言書の内容を手っ取り早く理解してもらうために、これをちょっと説明したいと思います。

この提言書の構成は作業順序とまったく逆に並んでいると思ってください。

ピラミッド型がありますが、一番下に「意見が152」と出ております。これは、たとえば13ページをお開けください。13ページの黒丸印で、丸ポチで書いてあるのが、13ページ、上からいきますとギリシャ文字で1、2とありますね。その下にアンダーラインがあって、ブルーのところですが、地区内アクセスとか、算用数字でございますね、その下に丸ポチで書いてありますのが152の意見です。

それをグループの提言といたしまして49の項目に整理いたしました。その49の項目というのが、実は算用数字で書いてある、青い文字ですが、算用数字で書いてあるのが、例えば14ページに2番、3番と算用数字で並んでますね、これらが実は49項目ございます。

そして、それらの49項目をさらに整理しますと、16のテーマに整理することができました。この16のテーマというのが今の13ページで言いますと、たとえば、社会基盤グループの提言では、ギリシャ文字の1、2となっておりますね。ずっとページが続きますと、社会基盤が2つ、生活環境が4つ、保健福祉が3つ、産業経済が4つ、教育文化が3つ、合計16のテーマに整理してございます。

この時点で5つの分科会の柵を外しまして、全部意見をばらしまして解いてみまして、それを垣根を乗り越えて解いて整理したのが提言の4つになります。この提言の4つというのは8ページになります。四角括弧で書いてございます。1、2、3、4ですね。この8ページ、9ページ、10、11ページまでに整理されているのがさきほどの16項目ですが、これを4つの提言に括ったということです。

そして、さらにそれを大きく捉えていくと、大きな視点が2つ見えてまいりました。その視点がページです。新しいまちづくりの視点。四角く囲ってございますが、ここが1つは地域力という言葉ですね。地域力をはぐくみ新しい地域創造をめざす。2つ目が、都市力、都市の魅力ですね、都市力を最大限に発揮する。この2つの言葉に括れると思います。それで、そのピラミッドの一番上に、我々まちづくりフォーラムの提言といたしまして、「地域力が奏でる都市力の創出をめざして」という言葉でタイトルとしてまとめてみました。

これを一応前置きといたしましてパネルディスカッションに入っていこうと思いますが、それでは、まず、社会基盤から各グループの提言を説明してもらいたいと思います。時間の関係もありまして、一応、下書きを読んで要領よく説明するというところもあるかと思いますが、お許しください。

では、社会基盤の小辻さん、よろしくお願いします。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

社会基盤グループでは、構成メンバーがバラエティーに富んでいまして、いろんな角度から意見が出ました。提言書の13ページから15ページが私どものグループの提言となっております。ご覧のとおり、最終的には、「どこへも便利 どこからも便利なアクセス網の充実」と「新しいまちを描こう 顔づくり・姿づくり・まちづくり」という2つの提言に集約しております。

最初の「どこへも便利 どこからも便利なアクセス網の充実」の提言では3つのサブテーマがありまして、1つが、地域内アクセスの向上や各地域と空港との利便性を高める。ここでは、1つのまちとなるわけですから、地域内のアクセスをよくしようということを目的にいろんな意見が出ております。現状では、問題点・課題を解決していくことを主眼に置いた内容となっております。

それから、2つ目が、甕島との一体的なインフラ整備の推進ということです。甕島という島嶼部を含む合併ということで、蘭牟田・瀬戸大橋架橋による甕島・串木野間の利便性向上、これは新市の一体化からも重要なことではないかという観点で取り上げております。また、急患への対応強化ということでヘリポート建設の必要性や海上タクシーの活用等が出ております。

3つ目は、地域内の移動手段の確保・充実による活性化です。くるくるバスなど、それぞれの市町村で実施してきたよいものを地域全体に広げていこうというものです。

次に、2番目の提言も3つのサブテーマで構成されています。

提言書の14ページの下からの方ですが、最初に、新幹線開通のメリットを最大限引き出す整備の促進をあげております。駅周辺の整備はもちろんですが、その中でも川内駅東側、これは樋脇町・祁答院町・入来町・東郷町側と言って

もよいのですが、こちらの整備及び道路アクセスの向上が求められます。

そして、2番目には、新市が海・山・川すべての資源を有することから、こうした特性を生かしたゾーニングによるまちづくりを行うということでまちづくりを進めていこうということです。

以上が新市の顔づくり姿づくりとし、3番目に、新しいまちづくりのところで、具体的には提言書にありますように、新市の名称をまったく新しい名称にすること。これについてはすでに協議会で決定されました。ただいま名称を公募しているところです。それから、新市で議員数が現在の9市町村議員の単純合計から100人以上減少することになりますので、住民の意見を反映しやすくするために選挙区を導入すること。また、新市のスタートを新たな議員定数のもとでスタートすべきであるということ。住民の意見の反映ということでは、地域審議会の設置はもちろん、それ以外にも住民意見を反映しやすい仕組みづくりなどの工夫をしていくことなどが出されました。

あと、地域文化、伝統を残す方法として、住居表示に字名を残した方がよいのではないかという意見も出ております。

以上が社会基盤グループの提言の概要です。

(コーディネーター 中俣代表)

以上が5つの分科会の中での社会基盤グループの提言内容の概要でございます。

一通り5つの分科会の代表にまとめてもらいますので。では、次に、生活環境の宮下さん、お願いいたします。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

生活環境グループの提言は提言書の16ページから20ページになっております。

基本的な方針としましては、環境先進都市を大きな目標としておりまして、離島を含む自治体における安心できる暮らし、定住・交流促進を念頭に置いて、4つの提言をしています。1つ目が、みんなで取り組む環境先進都市づくり。2つ目が、安心できる広域消防・救急体制の構築。3つ目が、地域ニーズを踏まえた住宅・宅地の整備。そして、4つ目ですが、地域内外の人々が集う魅力ある公園・緑地・河川の活用です。

16ページの資料、上の方なんですけど、青い文字で、生活環境グループの提言ということで4つ並んでおりますが、一番下の「地域内外の人々が集う魅力ある公園・緑地の活用」となっておりますが、緑地の後ろに「河川」が入りますので、書き加えておいていただきたいと思います。

1つ目の、みんなで取り組む環境先進都市づくりにつきましては、現在、複数の処理体制がありますごみ処理、し尿処理について、迅速で効率的なシステムに変えていく必要があるのではないかとということと、さらに、ごみの減量・再資源化、不法投棄等のルール違反の監視、指導体制の強化をあげております。また、水がきれいで豊かなまちづくりということで、水質検査の強化ですとか、その結果の公表、川内川を主とした水質保全への取組みなどもあげております。

2つ目の、安心できる広域消防・救急体制の構築につきましては、現在あります消防組合などの管轄の再編ですとか、中心部と山間部を結ぶ道路整備は必要だと思われまして、特に、さきほど社会基盤グループからもありましたように、離島がありますので、急患搬送につきましてはその時間短縮は大きな課題だと考えられます。私達のグループでもヘリコプターの活用ですとか、漁船のチャーターを含めた広域消防・救急体制の整備を取り上げています。さらに、離島からの急患搬送の際に必要なチャーター料、それから、付添い者の方の宿泊費などの負担軽減策も必要と考えられております。これに対しましては簡易の宿泊施設の整備ですとか、それらの提供というふうな必要性があるのではないかとこの声も上がっております。また、防災の面におきましては、地域住民による消防防災体制の充実につきまして、婦人消防隊をも含めました初期防災組織の育成をあげております。

次に、3つ目ですが、地域ニーズを踏まえた住宅・宅地の整備につきましては、公共賃貸住宅の整備と特色のある住宅・宅地の整備の推進を提言しています。過疎・高齢化が進み、特に離島におきましては深刻な問題となっておりますので、定住促進の重要性、そのための住宅整備というものをあげております。

最後、4つ目ですが、地域内外の人々が集う魅力ある公園・緑地・河川の活用につきましては、利用頻度の低い公園を今一度見直したらどうだろうかという意見があがっています。たとえば、あまり利用されていない公園を市民農園にするですとか、昆虫、植物などの自然観察ができる公園にするなどといった、特色を打ち出した人々が集い交流できる場所として活用できないだろうかという考えがあります。また、それらを地域外に誇れる公園としてアピールしていくことも必要だというふうな考えが出されております。また、合併を機に各地の公園に記念樹を植えたらどうだろうかという意見もありましたし、川内川という恵まれた天然資源がありますので、その水質保全と併せまして屋形船ですとかボートなどを浮かべ、川内川に親しむ機会を創出することも大切ではないかというふうな提言もあります。

以上が生活環境グループの提言です。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。屋形船構想などが出てきてますが、夢のあることだと思います。昔は浮かんでいたようですが、今はないですね。

では、保健福祉グループの伊集院さん、お願いいたします。

(保健福祉グループ 伊集院睦子委員)

保健福祉グループでは、みずから進んで行動し、共に助け合う福祉社会を形成するために、心身の健康づくりや福祉サービスの充実を図るということを基本的な考え方として提言をまとめました。提言は資料の21ページからになります。

保健福祉グループの提言は3つの柱から構成されています。1つが、市民のすべてが住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりの推進。2つ目が、市民すべての健康づくりの推進。そして、3つ目が、安心して出産し、子育てができる支援体制の充実でございます。

1番目の提言は、高齢者・障害者福祉の充実、地域福祉推進体制の充実、甑島からの介助者の経費負担の軽減の3つから成っております。内容的には、高齢者・障害者が快適に日常生活を送れるように、配食サービスとか送迎のサービスなど、各種サービスの充実に加え、そうしたサービスの提供をしていくマンパワーの確保、あるいは、ボランティアのネットワーク化といった支援体制の強化・推進についてまとめました。また、前のグループでも出ておりますが、甑島から本土の医療機関、福祉施設を利用した際、どうしても付添いや介助者の経済的な負担が大きくなります。そこで、そうした方々への助成や低料金での宿泊施設の整備といったことが必要ではないかというふうに考えました。

次に、提言の2番目でございますが、健康づくりの観点からまとめております。ここでは拠点施設の充実、保健サービスの充実、甑島における医療施設の充実を提言しています。拠点施設の整備では、温泉を利用したユニバーサルデザイン化複合施設の整備を取り上げました。研修施設のみならずスポーツ施設とかレストラン、あるいは地域の特産品等の販売コーナー等を併設すれば、世代を超えた交流の場として活用が期待できると思います。また、保健サービスの充実は、病気にならない、かからないといった予防の観点から提言しています。そして、甑島の医療に関しては、島内の医療施設を充実するほか、すばらしい自然環境を生かしたケアハウス等の施設設置を提言しています。

最後に、3番目でございますが、安心して出産し、子育てができる支援体制の充実ということで、保育サービスの充実と小児科の充実、24時間体制の小児科の設置など、小児医療体制の強化をあげております。少子化・核家族化の進行、女性の社会進出など、子育ての環境は大きく変化してきておりますので、それに対応した環境整備を提言しています。ここでは保育料の低料金化、子育て

て支援のためのボランティア育成などをあげています。

以上3点が保健福祉グループの提言でございます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。まちづくりフォーラムで出てきた議題で、甕島の方々の医療問題というのは非常に大きく取り上げられました。また、介護、介助する人の宿泊の問題、費用の問題、結構医療費に大きな負担があるんだということでした。それから、ちょっと補足しますが、ユニバーサルデザイン化複合施設というのは、老若男女、年齢、性別すべてどんな方でも使えるような施設という意味で使っている言葉です。

それでは、次に、産業経済グループの柏木さん、お願いいたします。

(産業経済グループ 柏木俣委員)

それでは、産業経済グループの提言をご説明いたしますが、24ページから27ページをお開きください。

産業グループでは4つの提言をいたしておりますが、1番目に、新たな時代に対応したダイナミックな農業の展開。2番目に、力強い水産業の新たな展開。3番目に、裾野の広い観光産業の振興。4番目に、都市の魅力の創出とありますが、ただこれは順番に並べてありますだけで、いずれが優先ということではございませんので、そのおつもりでお願いしたいと思います。

まず、第1次産業ということで、皆さん方もすぐ農業が頭に浮かばれるのではないかと思いますけれども、新市13万人になりましてもやはり農業が第1次産業でこの地域を潤していくことは間違いなさだろうというふうに考えておりますので、まず第1番目に農業の問題を取り上げております。

ご承知のとおり、農業というのは非常に幅広い仕事をたくさん持っているわけですけれども、特にこれから先の高齢化社会、あるいは農業従事者がある程度減少していくのではないかなというもののの中では、当然、川西薩地区がこれから先発展するためには、ぜひ農業公社の設立をお願いしたいというのが提言でございます。これは皆さん方農業に従事されている方はもう十分ご承知のように、オペレーターを育成したり、あるいは、新規の就農の方々をお願いしたいといういろんな手立てが農業公社から発展していけば、作る作物の内容についてもまた変わっていくんじゃないかなということでございますので、ぜひこれは新市の中では取り上げていただきたいということをお願いしております。

また、今、地産地消という言葉がよく言われておりますけれども、私どもは当然地産地消の中で特にこれ以上の物の考え方というのはまだまだたくさん

出てくるのではなかろうか。たとえば、新市内で生産された農産物や水産者などを新市内で消費する。あるいは、それ以上なパターンでこれを消化していくという方法も当然考えていく必要があるのではなかろうかというふうにも考えますし、そこにはダイナミックな農業という言葉を使いましたけれども、今ある考え方、いわゆる旧態依然としたイメージの農業ではなくて、新しい方策をまたここで取り入れていけばいいのではなかろうかということでございます。それはさっき申し上げましたように、農業公社の設立を通じて地域のいろんな方策をその中で処理していただきたいというのが提言の内容でございます。

それから、当然、今米の生産体系が国から示されておりますが、平成16年度、2006年はこれが変わるんだということでございますが、その中でも集落営農というのを取り上げておりますが、今、認定農業者の方が一生懸命農業をされているわけですが、ある程度きますとそこに限度があるんじゃないかなということで、今、農業に携わっている方々の中でも、あるいは高齢化、あるいは労働力の不足というものを加味しますと、集落の営農体系というものもぜひこれから先の農業の中には基軸として取り入れてほしいというふうに考えております。当面、今のところは集落単位の集落という名前を使っておりますが、将来、大きくなりましたら校区単位とか、いろんなそういう角度の中でまた農業の形態も変わった方向で推進をしてほしいなというふうに考えております。

それから、重点的な農業の振興作物、あるいは独自的な産品を作るということも当然考えていかなければならないわけですが、今、いろいろと国から農業に対しては助成や交付金などたくさんもらっておりますけれども、これがいつまでもそれが続くというわけではございませんので、そのへんも加味しながら農業に対する基本的な考え方は見直す必要もあるだろうというふうに思っております。

次が、2番目の力強い水産業の新たな展開ということでございますが、これは私も失礼なんですけれどもちょっと水産業の方は勉強不足でございまして、私のグループの中から出たご意見をそのままここに出しておりますから、誠に申し訳ありませんが、ここにシナリオの中はもらっておりますので、ちょっと卑怯なやり方なんですけど、これを棒読みにさせていただきます。

2つ目の提言ですけれども、新市は甌島地区や串木野市、川内市にわたる水産業を振興していくという力強い水産業の新たな展開です。水産業の根本的な問題として魚価の安定があげられ、そのために必要なことは、水産物を安定的に出荷できる体制をつくることであるということで、甌島から串木野間の海域に大規模な蓄養基地を作り、いつでも新鮮な魚が供給できる体制を構築したら

どうかということを提言しております。また、これらの魚を新市内に流通する仕組みを作り、物流等に関わる中間コストを省くことで、市民に新鮮な魚を低価格で提供できるようにするとともに、ということを提言をしております。さらに、水産資源は年々減少していることから、作り育てる漁業を進めるために大型漁礁を設置することも提言をいたしております。

次に、3番目ですけれども、裾野の広い観光産業の振興ということで出していますが、川西薩地区には、さっきもちょっとどなたか触れられましたけれども、海や山、川などの自然の資源、あるいは歴史的な文化の資源、あるいは温泉等々、いろんな観光資源があるわけですが、これらの特性を生かした個性のある観光づくりをしていきたいということでございまして、合併によって様々な資源の相乗効果を期待することに加えて、それぞれの特性を生かした新しい観光地づくりも可能になるのではなかろうかというふうに考えております。また、観光産業の振興を積極的に支援するために、新市の行政組織の中にぜひ観光課を設置していただきたいというのも提言として出していますが、これは他の委員の方の要望でもございました。

それから、4つ目になりますけれども、産業経済活動をするためにはそれに対応した道路や情報通信基地などのインフラが必要なことから、都市の魅力を創出していくことを提言としてまとめております。港湾機能の強化や産業道路の整備などを進めて、経済産業活動を支えて基盤を整備するとともに、市街に都市的な魅力を作り、人々が集うにぎわいのあるかたちを形成をしていきたいということでございます。特に、商店街の専門化、こだわりを持つまちづくり等々、これから先まだ都市を今よりより人が集まってくるような場所にしていきたいというふうに考えております。これらの振興策を進めるために、合併効果をできるだけ拡大効果があるようにし、違う資源が融合する相乗効果を発揮し、特徴ある産業を育てていくという方向で提言をまとめております。

少し言い方がおかしくなったんですけれども、皆さん方の力をお借りしながら、農業から都市の機能まですべてが、13万都市になった時には、なるほどこういうふうなスタイルかなというものが打ち出せたら一番いいのではなかろうかというふうに考えておりまして、提言を終わらせていただきます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。いろんな提言がございましたね。農業公社の設立とか、水産業の蓄養基地を作るとか、観光課の設立。これあたりですべてに通じるのが力強い産業ということで、わざわざ外から来てもらうというような言い方でまとめてございます。たとえば、ギリシャ文字の2番、力強い水産業の、算用数字の2ですね、あたりでわざわざ来てもらう。地産地消だけではなくて

わざわざ外から地域外の人も来るような産業づくりというところまで踏み込んでいるようです。

では、第5分科会の教育文化で、中島さん、お願いいたします。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

教育文化グループの提言についてご説明を申し上げます。9名の委員の中に教育関係の方や社会教育関係団体の関係の方が多くございまして、深く広い立場からご提言をいただいたと、そういうふうに思っております。9名の委員がお互いに心を通い合わせて、新市の教育文化づくりのことに本当に真剣に話し合いをいたしました。資料の28ページからが教育文化関係の提言でございます。

教育文化活動というのはすぐれた地域性を持っている、地域社会に深く根ざすということから、各地域の特色を十分に生かしながら新市教育文化の創造をめざす、そして、ネットワーク化を図っていったらどうだろうかというのが提言の骨子になっております。

提言は資料の中にございますように、地域の特色を生かした教育の推進。そして、特色ある地域文化の保存・継承の推進と新たな文化の創造。そして、コミュニティ活動の維持・強化を図っていくという3つの分野に分けてまとめてございます。

提言の第1は、地域の特色を生かした教育活動を推進・充実するということでございます。ここでは幼・小・中・高等学校の学校教育の地域の中に立脚した振興。また、生涯学習のいろいろな場においてネットワーク化による広域的な展開を図ったらどうだろうかということ。さらに、スポーツ活動を通じた健康づくり。そして、地域スポーツクラブ運動を展開していくということ。さらに、現今問題になっております青少年の育成問題では、地域の力を伸ばして地域の青少年育成活動の充実・推進を図っていく、これは現在どこでも言われていることではございますが、新市においても行う。それらを支援活動するために教育行政推進体制を今より落さないようにしていきたい。維持・充実していくということを中心として提言をいたしました。

学校教育の面では、学校規模や地域性により様々な特性や問題を抱えている学校教育の振興・充実を特認校の制度とか、また、いろいろな方策を通じて充実し、学校間の交流によってそれを向上させていくことを内容としております。

また、社会教育とか社会体育の面では、各地域の公民館等の生涯学習の施設間のネットワーク化を図って、それぞれ特色を生かしながら新市の中で、さきほどの話ではないですが、オーケストラを奏でる、そういったものはできないかという提言になっているところでございます。

提言の第2は、伝統芸能など地域文化の関係でございます。新市内の各地域にはそれぞれ地域に根ざした伝統的な芸能文化がございます。その存続と維持には多くの問題を抱えております。新市におきましてもそのための努力や施策の充実が誠に重要でございます。さらに、これが新市全体の伝統文化として、新市ふるさとづくりに発展させたいとの思いもでございます。

この中での2つ目の、組織団体の関係については、次のコミュニティ活動と深いつながりがございますが、文化団体をはじめ串木野のすばらしい女性団体、そういった社会教育関係団体等についてそれらの維持及び活性化への取組みについては、さらなる援助・助成が必要でございますし、新市として広域的な活動交流の推進を提言をいたしております。

3番目のコミュニティ活動についてでございますが、地域社会の基礎として単位自治組織の維持・充実は今後の、さきほどから話っております少子・高齢化等の社会構造の変動とか、そして、さらに、新市の未来を担う青少年の地域ぐるみの育成活動、その場としてさらに深くそれを充実していくということが非常に重要であるという提言でございます。特に、過疎地域の自治公民館活動の助成が不可欠でございます。また、新市の都市部での自治組織への未加入問題が新市の住民福祉の振興を図る上から大きな課題でございます。自治組織への加入促進など、新市における自治組織のあり方については、行政施策を含めまして前向きな対応が望ましいということでございます。そのような提言を教育文化グループとしてはいたしているところでございます。以上でございます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。教育文化では、特に地域性という言葉が強く使われておりますが、このまちづくりフォーラムの1つのタイトル、地域力ですね、地域力という言葉もこのへんから生まれてきましたが、実は、我々が第1回のまちづくりフォーラムを開催した時の前半の2時間ぐらいは、ほとんど心配とか不安とか、そういう意見ばかりでした。ですよ、皆さん。一体どうなっていくんだろうと。心配事が、今まで平穩無事に暮らしてきているところに、大きな改革というところでいろんな状況が違ってくるというところで、本当に心配事が多かったんですが、せっかくのこの合併というのを大きなチャンスとして、千載一遇のチャンスとして、50年に1回あるかないかだと。一生のうちにめぐりあえるのもいいじゃないかという気持ちになったのは2回目ぐらいからかもしれません。実は、33ページ以降に、各第1回から5回までの内容を具体的に書いてありますが、これは実はなまなましい記述が多いです。おもしろいと思います。あと、遠慮、会釈ない意見もそのまま一応取り上げてごさいます。提言書の整理した文章は一応行儀よく整理、言葉遣いも行儀よく整理されているんですが、皆様時間がありましたら33ページから後の方が実におもしろい意見、辛辣な意見とかありますので、関係される方には耳が痛い意見も出てたりしていると思いますが、そうしたことも踏まえまして、取りまとめてまいりましたが、この行儀のいいフォーラムの内容以外に、また、各分科会の中でも出た内容をちょっと聞いてみたいと思いますが、たとえば、甕島の医療問題についてとか、保健福祉の伊集院さん、保健福祉グループの方で出た意見等をちょっと紹介していただければどうかと思います。

(保健福祉グループ 伊集院睦子委員)

私どもグループのメンバーの中には、保健福祉の分野で活躍されていらっしゃる方、あるいは、個人でボランティアグループを立ち上げて、そして、地域に溶け込んだ活動をしていらっしゃる方々がいらっしゃいまして、最初の会議の段階では高齢者福祉や児童福祉、それから障害者福祉、保健・医療といった各分野別に現状とか今後の課題、要望といったかたちで、それこそフリートールキングで出して、そして整理する作業を行いました。資料では46ページから49ページに第2回の会議録、61ページから65ページに第3回の会議録に整理してごさいます。

現状では、各市町村それぞれに現在取り組んでいらっしゃる大変よいもの、大変よいシステム、そういうのが数多くありますので、よいものは合併しても続けてほしいなど、要望の中にまとめてあります。それで、合併で急激に変化

するよりも、特に福祉の分野は一定期間はそのまま、徐々に改善していくのがいいのではないかという意見が出ております。また、現行のサービスの質の低下は避けてほしいという意見でございます。それから、福祉は住民主体でなければならないというような意見もありまして、これは地域のケア体制、地域保健福祉ネットワークの充実とも関係していくと思いますが、そのためにはどうしてもマンパワーの確保ということで、ボランティアなどの育成・強化や、それから、そのボランティア活動への支援の必要性ということも意見として出ております。また、甑島においては人口が減っていくというような、そして、高齢化がどんどん進んでいくというようなことで、さきほどちょっと提言いたしました、甑島の自然環境を生かしたケアハウス、そういったようなものを設置することで、本土と言っていいのかわかりませんが、こちらの方から本土の方からどんどん島の方に渡っていくような、そういったような魅力あるケアハウス等ができたらいいなというふうに話し合いました。これらのことは医療とか保健、子育て支援にも同様の発想が必要と考えられます。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

医療問題については、急病人が出た場合に漁船をチャーターする方法とか、自衛隊のヘリコプターをチャーターする方法、ヘリポートの問題、そういう点も、社会基盤のグループでも話が出ましたけれども、シナリオ通りにはいかずに、社会基盤の小辻さん、そのへんも含めてお願いします。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

やはり、社会基盤グループでもこの甑島のことがあげられまして、我々が生活する上で本当に必要なもの、たとえば急患が出た時のヘリポートの対応はどうなっているのかとか、急患が出て介護をする時にそういう施設が、簡易宿泊施設があるかなどとか、本当、自分のことに置き換えればぞっとするような心配になるようなことが多々出まして、私どもも、私は樋脇なのですが、なかなか日頃生活していてぜんぜん、あっ、そうなんだと気付かされる部分が多々あったような気がします。

(コーディネーター 中俣代表)

パネラーの1人に、甑島、上甑出身の宮下さんがいらっしゃいますが、ちょっと意見を聞いてみたいと思います。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

消防・防災につきましては、さきほど触れましたように、新市には離島があるということで、皆さんどこのグループからも声をあげていただいて、それに

対する対策と言うか、いろいろ打ち出しておられるようですが、紹介いただきましたように私は上甌村に住んでおりまして、この件に関して少々力が入るんですが、甌島においての医療というのは地理的な面で非常に不利と言ってもいいと思います。皆さんはたぶんご存じだと思うんですが、さっき、新市の概況説明の際にスクリーンに写し出されましたけれども、上甌村と里村があるのは上甌島なんです。鹿島村があるのは下甌島なんです。上甌島と下甌島は離れてますので、新しい市は2つの離島を持つということになります。そうしますと、まず、本土とのやりとりもそうなんですが、甌島間の島域交通体系と言うんですか、資料の59ページにあげておりますが、島内での交通体系の整備の充実もやっていかなくてはならないのではないかと。そして、その上で1次医療施設としての総合病院の建設は必要ではないかなというふうに考えておりますし、実際、そういう意見も出ております。ある程度の病気ですとか怪我は島内で対応できれば一番いいのではないかなというふうに考えています。甌島ですとか離島と言いますと非常に遠くて不便でというような、あまりいいイメージを持っていただかないのかもしれませんが、実際いいところなんです。住んでいる本人が言いますから、間違いありません。いいところですので、同じ市内になるわけですので、ぜひ皆さんもお気軽においでくださいということで、宣伝を付け加えさせていただいて、私の方から終わらせていただきます。

(コーディネーター 中俣代表)

上甌島と下甌島の間、藺牟田・瀬戸大橋の問題などが出ましたが、その点については宮下さん、どうですか。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

シナリオにない話ですので。いろいろな話を聞きます。橋を作ってもあまり何なのではないのかと、あまり賛成しないような声も実際聞くには聞きます。しかし、私どもの生活環境グループの中に当然鹿島村の方もいらっしゃいまして、その方から話を聞きますと、非常に苦慮されていると。しかし、それはボランティアですとか社会福祉協議会などのサポートによって何とかやってはいらっしゃるようなんですが、救急車の問題ですとかバス路線の問題ですね、やってらっしゃるようなんですが、橋1本架ければかなりの困難な部分がクリアされるような気がします。産業的なもののメリットはないのではないかとかという声も聞きはするんですが、実際人が住んでおりますし、そういった計画があるわけですので、ぜひ架橋問題というのはなるべく早い時期に完成させていただきたいというふうに私個人的には思っております。

(コーディネーター 中俣代表)

お金がかかる問題ではございますが、橋ができると船便をずいぶん増設できるので、甕島への通行が非常に容易になるという意見を聞いております。

中島さんは自分でも教育界にいらっしゃった方でございますが、教育文化の中でも鹿島村のウミネコ留学制度とかそういうのも話が出てきましたが、また、こちらの方でもウミネコだけではなくて過疎化の学校のいろんな制度がありますが、その地域性ということも含めてちょっと話を聞かせていただけませんか。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

今、甕島の鹿島で行われているウミネコ留学という、ウミネコというのがあそこの天然記念物になっておりまして、そこの小学校に全国から留学する子供たちを募集して、そこで1年間ないしは2年間教育活動を行っておられると。そして、過疎の地の子供たちも活気を持つといったようなユニークな教育活動が行われているわけございまして、こういうことはやっぱり続けていきたいといったような委員の皆さんの強い意見がございました。その他、串木野市には特認校制度ということで、小規模校には大規模校にないよさがあるから、大規模校の子供たちで希望する子供はそこに行ってもよろしいですよということで、相当数の子供たちがのびのびと勉強しているといったようなのも聞いているわけでございます。さらに、甕島とこちらの方のいくつかの村との町との学校間の交流とか、また、自然教室、キャンプ等を行っているというような事例等もあるわけございまして、新市の域内で子供たちが町と村、島と町、島と村、そういった交流をのびのびとできるような体制ができるなと思うと、心がわくわくするわけでございます。以上でございます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございます。産業経済の方でダイナミックとか力強いとかいう言葉が使われてますが、産業経済の柏木さん、この点についてお話をうかがいたいと思いますが。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

水産業のことは詳しくありませんので、フォーラム委員の方からの意見を聞いたものを総合しまして、ここには甕島にはこういうふうなことをしたらいいのではなからうかということで大規模な蓄養基地づくりをまずしようというのは、これはご承知のように、魚を売るのは個人で売られる方もあれば、鹿児島まで持って行かれる方もあれば、漁協で売られる方もあって、いろいろパタ

ーンがあるそうでございまして、なかなか一律にこれを統制するというのか、一本化するというのは非常に難しいのではないかなという意見が私のグループでは出ておりました。そこで、1か所に魚をたくさん集めておいて、それを串木野港に陸揚げして、何か一番いいまい方法で売れる手立てがあればいいんだらうということで蓄養基地の提言をいたしております。これは多少お金のかかることだと思います。また、漁礁もぜひほしいというのも当然これからは作る魚づくりというのもあるだらうと思ひましてそういう提言をいたしておりますが、当然、新しい市づくりになりますと、あまり財政投資がよくないよとおっしゃれば、ぱっといなくなるんじゃないかなという懸念もされますが、そういうことはぜひできるものは実行してほしいというのが私どもの委員の中から出ている声でございました。

それから、最初にも申し上げまして、少し簡単に申し上げましたが、地産地消の考え方を、今流行りの地産地消よりも、多少変えて、13万という大きな都市になれば、その中で流通機構もいろいろと見直していく必要があるだらうというふうに考えておりますし、当然、その中では農業の形態も、あるいは商業の形態も変わっていくという努力をお互いにしなければならぬだらうというのが基本的な考え方だらうというふうに思います。できるだけ余計な投資や、余計なものは使わずに、その中で一番効率のいいものをまず探していく必要があるだらうと。これは当然新しい皆さん方の考え方、結局、小さい町とか小さい村ではなくて、1本化された13万都市となりますと考え方も自ずからそのへんの視野が広がってくるのではないかという期待と希望は私達は持っております。また、最初も申し上げましたが、第1次産業の農業の振興はまだまだこれからしていく必要が当然あると思ひますので、その中でいろんな産業もまた構図を変えた中で、伸長と言いますか、進捗と言いますか、できるだけ各市民の皆さん方が合併してよかったなというふうなこだわりのあるかたちのものを作り上げていけば、皆さんもいいんじゃないかなというふうな考え方でございます。当然、この中にはさっき申し上げました観光資源等という問題も出ますけれども、そういういろんなものをすべてを組み合わせた1つの流れと言いますか、政治の考え方の中で幅広いものを作っていたいただければ非常にありがたいというふうに考えております。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

今、各地で結構おもしろい店、おもしろい店づくり、こだわった店づくり、あそこまでわざわざ10キロあるけど行ってみようかというような食べ物屋さんとか出てきてますよね。特に串木野はそういうこだわった店がたくさんあるんじゃないかと私は存じておりますが、串木野だけではないですけど。そう

ということで、産業経済部門では人を呼び寄せるような店づくりをしていこうじゃないかということが大きなテーマになっていたと思います。

合併の大きなデメリットの1つとして、地域の声が届きにくくなるのではないかというのが大きな心配の1つでしたが、いろんな制度づくりは上部の法定協議会にお任せするとしても、我々まちづくりフォーラムでも出た意見として、たとえば地域審議会の設置ということなども出てきてますが、このへんについて、社会基盤グループの小辻さん、ちょっとお話を聞かせてください。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

今、代表が言われたように、住民の方々が、これだけの大きい枠組みになるわけですから、一番心配されているのはそのへんではないかというふうに思っております。面積が非常に広大になるわけですから、住民の声が届きにくくなるのではないか。そこで、きょうは議員の方も出席されておりますが、かなり新市になると少なくなるのではないかと。そういうところで選挙区の導入という意見も出ております。やはり、甑島、川内市を比べますとかなり格差が出てくると思いますが、やはり皆さんが心配しているのは、自分たちの声をどういうふうの上にあげていただけるのであろうかというところがかなり私どもの社会基盤の中でも時間を割いたところになっております。

また、社会基盤と言えはかなりの外枠だと思うんです。そこで、観光マップを使って、皆さんがたとえば串木野の方が空港まで行くのにどういう道路を通って行くのであろうと。そういうところで問題提起を点で示していきました。そこをどういうふうに解決していけばよろしいのかということで、点を線でつなぐ作業を皆さんで、観光マップを円卓の真中に置きまして、ここが橋が狭いんだよねとか道路がよくないんだよねというところで、やはり肝心となるのは交通アクセスの関係ではなかろうかと思っております。また、新幹線開通も控えていますし、空港及び地域内アクセスの充実といったことが論議の中心でありました。

また、甑島との海上アクセスでは、たとえば、さきほどからお話に上がっておりますが、蘭牟田・瀬戸大橋が完成することによって島内の陸上移動が可能になることで、串木野と甑島との高速船がピストン輸送が可能になり、一気に利便性も高まってくる。これは別に甑島だけのことではなくて、私どもがゾーニングという言葉がありましたが、皆さん、私は樋脇なんです、山と温泉というイメージがあるんです。そこに自分の町に海もできる、川もできる、そういうことを考えると、マリンスポーツもできるじゃないかと。そういう明るい材料もたくさんあるのではないかという意見がたくさん出ておりました。

この他にも様々な意見が出てますが、提言書の後半部分をご覧ください。

と思います。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。地域審議会という言葉は、我々も合併を勉強して初めて知った言葉ですが、詳しくはわかりませんが、旧市町村を母体にしてできる組織だそうです。9つの市町村がそれぞれ、9つの古い市町村をベースにして、各市町村での地域審議会というのを、たぶん何年間かということだと思いますが、立ち上げる。これにはどんな方が選ばれるのかまではちょっと忘れましたが、それなりの町のことをよく理解している人たちが委員として選ばれるのではないかと思います。そういう方々が旧市町村のことも見守りながら新市の成長を見守るということになっているようですが、あと、それ以外でも住民の自治組織をこのまま簡単に壊してしまっはいけないよということで、教育文化の方でも項目として取り上げているのが自治組織ということでした。議員の数なども減っていくわけですので、そういう自治会とか公民会とか、そういう組織の充実が図られる必要があるのではないかと、というのがだいたい意見になってきております。当たり前のことでした。

それでは、何か皆さんの方からもう一巡り意見を聞きたいと思いますが、その前にございますか。言い忘れたこととか。

それでは、ここで、会場から質問を受けてみたいと思いますが、何かございますでしょうか。どうぞ。